

# 石狩川源流森林総合調査（第4次）

## 現地検討会の開催

日時：平成26年7月1日（火）

場所：大雪原生林植物群落保護林、大雪施業指標林等

参加者：北海道支所 14名、北海道育種場1名、北海道森林管理局3名、上川中部森林管理署1名

大雪山国立公園の中核にある層雲峡地区にある約3500haの国有林は、原生保護林の残る貴重な森林ですが、昭和29年の洞爺丸台風により、甚大な風倒被害を受けました。

こうした大規模な被害のあと、どのように森林が回復し、変化していくかを調べるため、北海道森林管理局と北海道支所の協同によって、20年ごとに、植生を始めとした総合的な調査がこの森林内で行われています。洞爺丸台風から60年目にあたる今年も調査が行われるため、関係者による現地検討会が開催され、調査地の現況と今後の調査についての情報共有を行いました。調査地のなかには、台風直前に植生調査が始まった場所や、回復のために様々な施業が行われた箇所も含まれているため、様々な状態を観察することが可能です。

こうした長期的なモニタリングによって、長い年月をかけて変化する森林の動きを知るための貴重なデータを得ることができます。

